

国語科学習指導案

授業の視点

話し合いの場面において、教師も「参加者」として加わり質問や反対意見を言うことによって、児童が自分と友だちの考えを比べて考えをまとめ、発言するであろう。

I 単元

はんで意見をまとめよう（話す・聞く） 光村図書3年下
クラスみんなで決めるには（話す・聞く） 光村図書4年下

II 単元設定の理由

(1) 目標

①知識及び技能

相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話す。

②思考力、判断力、表現力等

目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる。

③学びに向かう力、人間性等

目的を意識して、粘り強く考え、進んで日本語で表現しようとし、在籍学級の授業での話し合いに生かそうとする。

④日本語

話し合いの時に使う話し方・聞き方ができる。

使わせたい日本語表現・「～がいいと思います。それは、～だからです。」「わたしも〇さんと同じです。」

(2) 学習内容

本単元は、学習指導要領の第3学年および第4学年「2〔思考力・判断力・表現力等〕A話すこと・聞くこと（1）オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること」を受けて設定したものである。

本単元では、司会や記録係、参加者などの役割に応じて、共通点や相違点に着目しながら話し合い、多くの人が納得できるように結論を導いていくことをねらっている。

本教室の児童は、特別の教育課程による取出し指導を受けている。それぞれの児童は、編入直後は個別に学習を進め、国語教科書を用いた学習ができるようになった段階から同学年グループによる学習形態へ移行し、今年度は2年生から3年生の教科書を使用して学習してきた。在籍学級では3年生で「はんで意見をまとめよう」（進行を考えながら話し合う）を学習済みだが、対象児童は未習のため、「はんで意見をまとめよう」と「クラスみんなで決めるには」を合わせた形で本単元を構成する。

まず本教室においてグループによる話し合い活動を行う。その中で、話し合いにおける役割について学習する。話し合いの前には、自分の考えとその理由を書く活動を行うことで、議題に沿った内容になるようにする。話し合いの前には、教科書の話し合い動画を活用し話し合いのイメージをつかむとともに、相手を見て話したり聞いたりすることや話す速さ、間の取り方などを確認する。グループによる話し合いでは、司会の役割を全員が経験できるようにする。

グループによる話し合いを経験した後、在籍学級では第1次となる単元のめあての確認や役割分担の時間に、本教室の児童が在籍学級の授業に参加し、日本語指導担当は入り込み指導を行う。

話し合いの議題については、在籍学年の担任と協議し、学校生活の中で必要感の高いもの、本教室の児童にも取り組みやすい内容となるようにする。その後本教室で、在籍学級での議題について自分の考えをまとめる学習を行う。

最後に在籍学級で話し合いを行う時間に、本教室の児童は「参加者」の役割で参加する。日本語指導担当は入り込み指導をし、必要に応じて個別に支援する。話し合い後の振り返りは、在籍学級と本教室とそれぞれで行う。学級での役割を果たした経験は、児童の自信となり今後の学習への意欲へつながるであろう。

(3) 系統性

本教室のこれまでの「話すこと・聞くこと」に関する学習は、生活場面を中心として自分のことやしたこと、思ったことを相手に伝えられるよう、必要な時に必要な内容を学習に取り入れてきた。

在籍学級の授業につなげることを目標とした本単元の系統は以下のようなものである。

10月 「対話の練習 山小屋で三日間すごすなら」(光村図書 3年上)
・目的や進め方を確認して話し合う。

11月 「はんで意見をまとめよう」「クラスみんなで決めるには」
・役割を意識しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる。

5年生 「よりよい学校生活のために」
・立場の違いを明確にして、計画的に話し合う。

III 児童の実態 (4年生3名) ※省略

IV 指導方針

【つかむ】

- ・4年生の教科書を使うことを知らせるとともに、今後の学校生活での様々な場面や学級活動などでも生かすことができることを知らせ、役立つ学習であるという意味付けを図ることにより、意欲を高める。
- ・文字の抵抗を軽減し、学習内容に集中できるようルビ付き教科書を使用する。
- ・これまでの学級での話し合い場面を思い出させたり、教科書の話し合いの動画などを活用したりして、学習活動に見通しをもたせる。

【追究する】

- ・児童にとって分かりやすい日本語を用いたリライト教材を作成し、音読やロールプレイを行い、話し合いの進め方を理解できるようにする。
- ・ロールプレイを通して話し合いで使いたい言葉、話し合いで気を付けることをまとめ、「話し合いのポイント」として掲示しておき意識できるようにする。
- ・議題は、児童が興味をもち自身の経験から考えることができるもので必要感があるものとする。
- ・話し合い①では、『坂東小学校へようこそ』にのせる写真を決めよう」話し合い②は、「日本語教室の1年生に教える遊びを決めよう」とし、目的意識をもって話し合いができるようにする。
- ・話し合い①では、一人が3つの案を考えておき、3回話し合いを行うことで司会を全員が経験できるようにする。
- ・話し合いの前には、自分の考えと理由を書き、話し方の練習をして、話し合いに参加する自信をもたせる。
- ・話し合いの際には、教師は司会の児童を支援するとともに、「参加者」として加わり、質問や反対

意見を言うことで児童が自分と友だちの考えを比べて考えをまとめられるようにする。

- ・在籍学級の学習計画第一次に参加する際には、日本語指導担当は入り込み指導を行い、児童の様子を観察し、その後の日本語教室での指導で不安や戸惑いを解消するようにする。
- ・在籍学級で話し合いを行う際には、日本語指導担当は入り込み指導を行い、意見が言えそうな場面で挙手を促すなど支援する。

【学級担任との連携】

- ・在籍学級担任から学級活動や道徳の時間などの話し合い活動の様子を聞いておき、学習計画に生かす。
- ・在籍学級担任と事前に話し合い、全ての児童が必要感をもって話し合える議題を一緒に考える。
(仮題：「クラスみんなが、おたがいをもっと知るためには」)
- ・在籍学級担任と学習計画を共有し、在籍学級の話し合いで日本語教室の児童が活躍できる場を設定しておく。

【まとめる】

- ・振り返りの観点を示したワークシートを活用して、活動を振り返ることができるようにする。
- ・在籍学級のまとめの時間に参加し、学級の友達の発言を聞くことで、多様な意見に触れられるようにする。
- ・児童一人一人のよさやがんばりを賞賛し、今後の日本語学習の意欲につなげる。

V 本時の学習

(1) ねらい

話し合いで使う言葉を意識して、互いの意見の共通点や相違点に着目して話し合いをすることができる。

(2) 準備

教師：掲示物「話し合いのポイント」

児童：自分の考えを書いたワークシート

(3) 展開

学習活動	支援及び留意点	時間	観点評価項目（方法）
1. 本時のめあてを確認する。	○前回の話し合いを想起させ、よりよい話し合いにするというめあてをもたせる。	5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「話し合いのポイント」をいしきして、友だちの考えを自分とくらべながら聞いて話し合おう。</div>
2. 話し合いに向けて確認する。	○「話し合いのポイント」を読み、一人一人に気を付けたいことを考えさせる。 ○議題を全員で読み、1年生が楽しめることを決める、という目的を確認する ○役割（司会と参加者）と時間を確認する。	10	
3. 議題について話し合う。	○児童の発言の時には、必要に応じて足りない言葉を補ったり、正しい言い方になるよう助言したりする。 ○教師も話し合いの参加者となり、質問や反対意見を言い、児童の考えを整理させ、自分の言葉で説明するようにさせる。	20	<p>【指導に生かす評価】</p> <p>思</p> <p>自分の考えと理由を発言したり、友だちの考えを聞いて比較したりしている。</p> <p>(発言)</p>

	<p>○司会の児童が進行をうまくできないときや、発言する児童に支援が必要な場面では、司会の児童に言うとよい言葉を示すなどする。</p> <p>【予想される児童の反応と支援】</p> <p>A 友だちの考えと比べて考え、話し合いの流れに合った発言をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の児童へ質問を促すなど発言がたくさんできるようにする。 <p>B 友だちの意見と同じか違うかを発言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこが同じか違うかも発言するように助言する。 <p>C 自分の考えと理由だけを発言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会を通して、他の児童から質問するようにして、発言の機会をつくる。 		
4. 話し合いを振り返り、よかったこと、がんばったことを伝え合う。	<p>○振り返りの観点を示したワークシートを用いる。</p> <p>○よくできた点を賞賛し、次は在籍学級で話し合うことが目標であることを知らせる。</p>	10	<p>【記録に残す評価】</p> <p>態 できるようになったことを自覚している。 (ワークシート記述)</p>

VI 参考資料

指導と評価の計画

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価項目
つかむ	1	<p>○これまでの話し合い活動を振り返り、話し合いのめあてをもつ。</p> <p>○話し合うための役割について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで在籍学級で経験した話し合いを思い出させ、話し合いの動画を見ることで「話し合い」のイメージをつかませ言葉の意味を抑える。 ・役割ごとに気を付けることを確かめる。 	<p>態 話し合いに関心を持ち、話し合い活動を行うことに意欲をもっている。 (観察・発言)</p>
追究する	2・3	<p>○話し合い① 『『坂東小学校へようこそ』』の掲示にのせる写真を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのロールプレイをする。 ・自分の考えとその理由をワークシートに書く。 ・話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リライト教材を音読して言葉に慣れるようにする。 ・ロールプレイを行い、話し合いの進め方を理解できるようにする。 ・案を3つ考えさせておき、全員が司会を経験する。 ・「司会で使う言葉シート」を持たせておく。 	<p>思 議題について自分の考えとその理由を明確にし、話すことを選んでいく。(記述)</p>

	4 ・ 5 (本 時)	<p>○話し合い②</p> <p>「日本語教室の1年生に教える遊びを決めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのロールプレイをする。 ・自分の考えとその理由をワークシートに書く。 ・話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に教えるという目的を意識させ、遊びとその理由を考えさせる。 ・必要に応じて、足りない言葉を補ったり、正しい言い方になるよう助言したりする。 ・教師も話し合いの参加者となり、質問や反対意見を言う。 	<p>【思】</p> <p>自分の考えと理由を発言したり、友達の考えを聞いて比較したりしている。</p> <p>(発言)</p>
	6 ・ 7 ・ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級の第一次（単元のめあてと学習計画）に参加する。 ・日本語教室で自分の考えと理由を書く ・在籍学級の話し合いに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入り込み指導を行い、必要に応じて個別に助言したり、挙手を促したりする。 ・日本語教室での学習をもとに在籍学級での学習のめあてを確認する。 ・それぞれの児童が活躍できる場を事前に学級担任と共有しておく。 	<p>【知】</p> <p>相手を見て話したり聞いたりし、強弱や間に注意して話している。(発言)</p>
ま と め る	9	<ul style="list-style-type: none"> ・在籍学級での振り返りの時間に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入り込み指導を行い、学級での話し合いでよくできたことを発表できるよう支援する。 	<p>【態】</p> <p>日本語教室での学びが在籍学級の授業につながったことを自覚している。</p> <p>(記述・発言)</p>